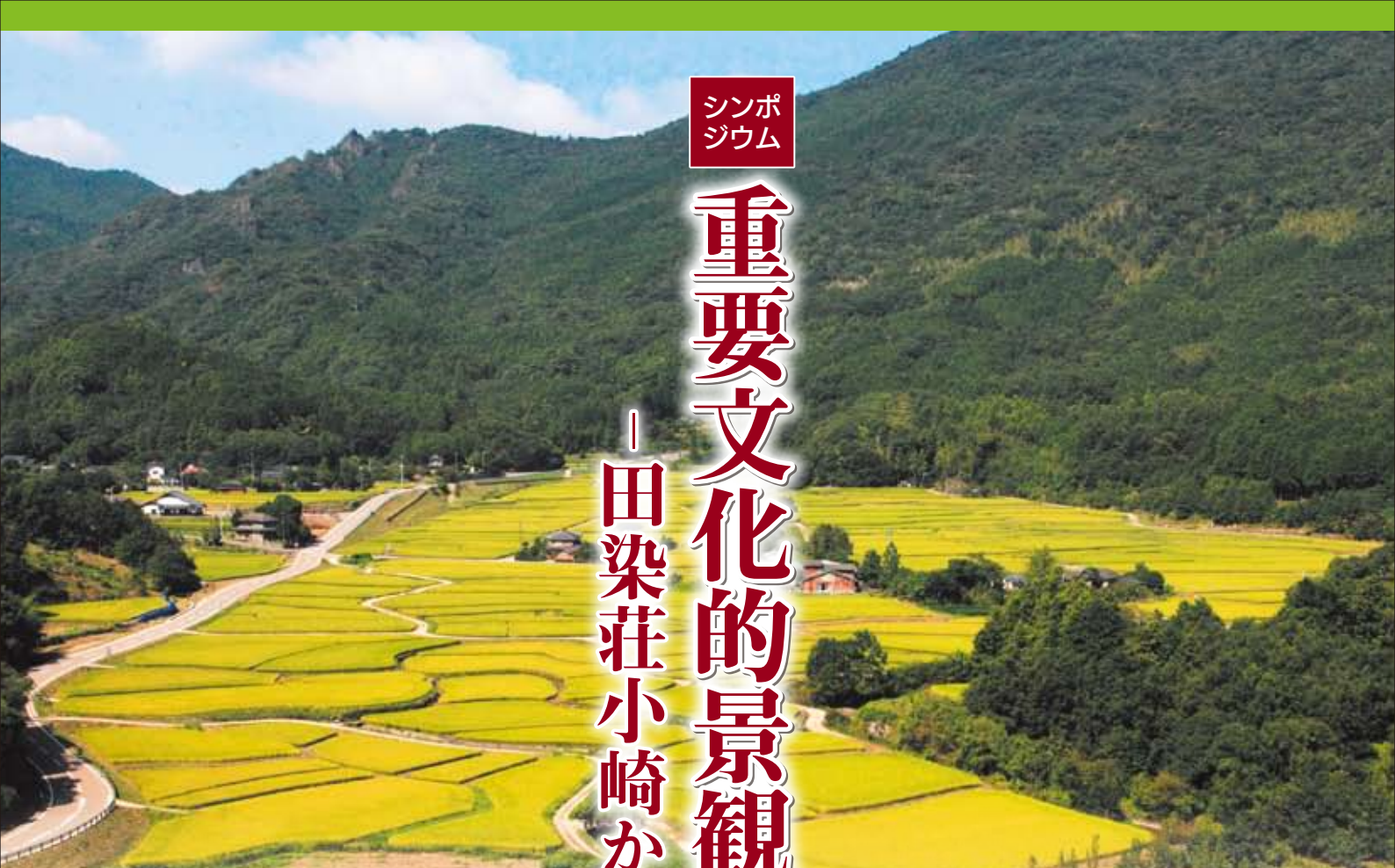


シン  
ポジウム

# 重要文化的景観と農村の未来

「田染莊小崎から21世紀を考える」



日時 **2011年 7月16日** 土

13時～17時30分 **参加無料**

- 基調講演 ● 佐々木 葉 早稲田大学創造理工学部教授  
「風景の連関と継承－田染莊小崎の場合－」
- 入間田宣夫 東北芸術工科大学芸術学部教授・東北大学名誉教授  
「荘園遺跡の文化的景観－東の骨寺から西の田染へ－」

会場 **早稲田大学小野記念講堂**

主催 **大分県豊後高田市・早稲田大学水稲文化研究所** 後援 **文化庁・大分県・棚田学会**

お問い合わせ・申し込み先 ● 豊後高田市 企画政策課／TEL.0978-22-3100 FAX.0978-22-2725 E-mail:fujishige@city.bungotakada.oita.jp

● 早稲田大学海老澤研究室／TEL.03-5286-3734 FAX.03-3203-7718 E-mail:ebisawa@waseda.jp

※参加希望者は、7月15日までに上記までお申し込みください。申し込みがなくとも当日定員(200名)に達するまでは参加可能です。



シンポ  
ジウム

# 重要文化的景観と 農村の未来

— 田染荘小崎から21世紀を考える —

たしぶのしょう おさき



## 【開催の趣旨】

大分県国東半島の西部に位置する豊後高田市の田染（たしぶ）地域は、中世の宇佐八幡宮の荘園に起源を持つ農村として知られる。その中でも小崎地区は、13世紀からの耕地・村落の基本形態が現在の土地利用に継承されているという点で貴重であり、2010年8月5日に重要文化的景観に選定された。今回のシンポジウムは、「田染荘小崎の農村景観」の重要文化的景観選定を機に、この貴重な景観に対する理解を深め、保存と活用を考えていくことを目的として開催するものである。

既に2010年8月には、地元豊後高田市で「田染荘小崎の農村景観」、11月には別府大学で「文化的景観と地域連携」、12月には九州大学で「田染荘小崎への招待」と3回のシンポジウムを開催し、(1)田染荘の歴史と重要文化的景観選定の経緯、(2)田染荘小崎の豊かな自然と農業、(3)農家民泊、オーナー制への取り組みなどについて多くの問題が論じられてきた。

今回のシンポジウムでは、日本社会全体の地域活性化問題をこの地に投影して議論を組み立て、田染荘小崎のモデル的価値を明らかにする。特に「文化的景観」が有する社会的資産としての価値にスポットライトを当て議論を深めたい。文化財行政からさらに進んで農村・都市を問わず、人々を惹きつける伝統的景観とは何かを社会環境工学の立場から佐々木葉氏に、田染荘と共通する基盤を有し、「文化的景観」の最前線に位置する一関市本寺との比較を日本中世史の立場から入間田宣夫氏に、それぞれ基調講演をお願いした。



## ◆シンポジウム 開会13時

◇趣旨説明 海老澤 衷（早稲田大学文化学院教授、水稲文化研究所代表）

◇豊後高田市長挨拶 永松 博文

◇基調講演 ○佐々木 葉 早稲田大学創造理工学部教授

「風景の連関と継承－田染荘小崎の場合－」

○入間田宣夫 東北芸術工科大学芸術学部教授・東北大学名誉教授

「荘園遺跡の文化的景観－東の骨寺から西の田染へ－」

◇パネルセッション・休憩

小野記念講堂エントランスホールで景観と自然をテーマにパネルセッション

◇パネルディスカッション

○海老澤 衷（コーディネーター） ○佐々木 葉 ○入間田宣夫

○服部 英雄（九州大学比較社会文化研究院長・教授）

○飯沼 賢司（別府大学教授・同大学院文学研究科長）

## ◆シンポジウム 閉会17時30分

## ◆懇親会